

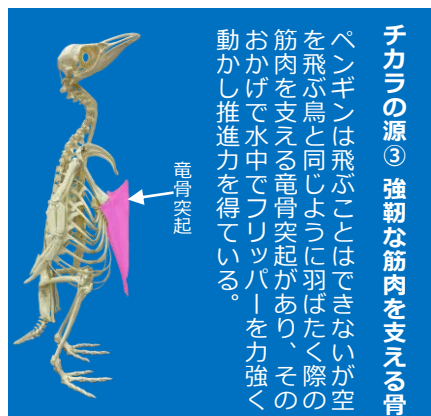


ペンギンの翼のことをフリッパーと呼びます

叩かれると痛いらしい その威力は？ ペンギンコマパ！

フリッパーで叩かれるのはペンギン飼育係あるある？
ペンギンが水中を勢いよく泳ぐのに欠かせないのがフリッパー。潜水生活に適応するためにも強靱な作りになっている。そのため叩かれると痛く、ときにはアザができる程とか。そのフリッパーの強さを身体を張って体感した人がいた。

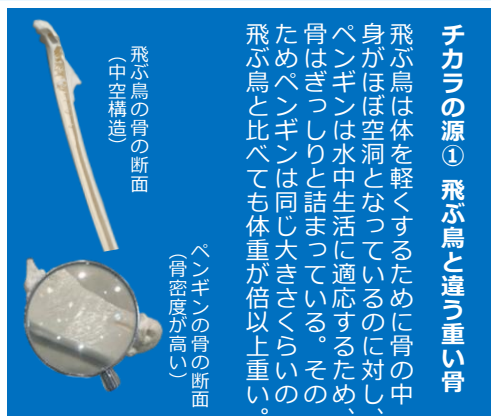
詳しくは担当飼育係の声へ



チカラの源③ 強靱な筋肉を支える骨
ペンギンは飛ぶことはできないが空を飛ぶ鳥と同じように羽ばたく際の筋肉を支える竜骨突起があり、そのおかげで水中でフリッパーを力強く動かして推進力を得ている。



チカラの源② 水中仕様のフリッパー
一般の鳥は、上腕骨よりも先の骨にも関節があり、それぞれ可動できる。一方ペンギンのフリッパーは上腕骨より先が1枚板のオールのように変化しており、水の抵抗にも負けない強靱な構造となっている。



チカラの源① 飛ぶ鳥と違う重い骨
飛ぶ鳥は体を軽くするために骨の中身がほぼ空洞となっているのに対し、ペンギンは水中生活に適応するため、骨はぎつしりと詰まっている。そのためペンギンは同じ大きさくらいの飛ぶ鳥と比べても体重が倍以上重い。

★エンペラーの力強さを物語る昔のエピソード★
捕鯨船、バレーナ号の五人の乗組員が、エンペラーペンギンを傷つけずにやっつけて氷の上に押さえてみようとした。かれらはこの仕事にはまったく向いていなかったらしく、まるで**九柱鼓のビン**のように倒された。しかし、ついにかれらは、二本の革ベルトを鳥の体に巻きつけることに成功した。そして立ち上がり一息ついた。ペンギンもおなじように立ち上がって一息つき、**ベルトを引き裂いた**。力の強いこの動物は、最終的にロープで縛りあげられた。ところが船上に引き上げられると、かれは翼の一撃で船の飼犬を**ノックアウト**してしまったのである。(ロバート・クッシュマン・マーフィー提供の記事)
(ジェームス・ゴーマン(訳: 沢近十九九)、「トータルペンギン」、練りプロボート、1991、P72)



担当飼育係の声
あれは餌を与えている時のことですが、偶然なのか餌をせがんでなにか分かります。ペンギンからエンペラーペンギンにフリッパーで叩かれました。フルスイングではなかつたので大事には至りませんでした。が、腰が引けたので、ちかりと痛かったです。ちなみに他の3種のペンギン(ヒゲ、アデリー、ジェントウ)も叩かれると痛いですが、エンペラーに叩かれた動画